

# 11

NOV/2018/Vol.164

# 広報 東峰 TOHO

URL : <http://vill.toho-info.com>

○楽・らくスポーツフェスタ 2018  
協力：アビスパ福岡

## 目次

- 2p / 3p ○ ○ ○ ニュース&トピックス
- 4p ○ ○ ○ ○ ○ 特集「福井神社 おほし様まつり」
- 5p / 7p ○ ○ ○ JR九州日田彦山線の早期復旧について
- 8p ○ ○ ○ ○ ○ 地域おこし協力隊 活動日誌
- 9p ○ ○ ○ ○ ○ 保健師からのお知らせ
- 10p / 12p ○ ○ ○ 公民館ひろば
- 13p / 17p ○ ○ ○ 役場からのお知らせ
- 18p ○ ○ ○ ○ ○ 「日本で最も美しい村」 連合ニュース
- 19p / 21p ○ ○ ○ 暮らしの情報
- 22p ○ ○ ○ ○ ○ 村の行事・在宅医表
- 23p ○ ○ ○ ○ ○ 村長Navi
- 24p ○ ○ ○ ○ ○ フォトギャラリー



福岡県東峰村  
毎月15日発行





## 幻想的な灯の祭典

### ■小石原・千灯明 ～灯りと神楽舞～

10月27日（土）、ふるさとの思いを込めて今年も小石原地区の高木神社にて千灯明が行われました。このお祭りは、1,000個を超える竹灯籠や巨大なぼんぼり、和紙灯籠の灯りが幻想的な雰囲気をかもし出し、参拝者の心を和ませます。神社では子供たちによる「やまびこ太鼓」や2つの団体（①小石原夜神楽保存会 / ②老松神社土師神楽）による神楽舞なども奉納されました。舞台には、四方に「鼓」・「宴」・「舞」・「楽」の書が飾られ、近くの屋台では焼鳥や焼そばなどの「夜店」がにぎわいに華を添えていました。



▲竹灯籠

▲①奉納の舞

▲②神の舞

▲竹灯籠とぼんぼり

▲子ども達に大人気の店

## 地元と九州大学学生たちによる共同作業

### ■岩屋地区（日田彦山線沿線）に草刈りボランティアが参集

10月28日（日）、九州大学学生ボランティアの方々、東峰村岩屋地区を訪問されました。この岩屋地区住民と学生との共同作業は、九州北部豪雨災害後、昨年10月から始まりました。九州大学の岡幸江先生（人間環境学研究院教育学部門准教授）率いる研究室の皆さんは総勢7名（先生含む）で、社会教育学・地域教育学を専門に学んでいる方々。

今回は、沿線景観を自ら作り維持してきた岩屋地区のつつじ保全活動への賛同・応援の思いで参加したとのこと。地元の方の先導で、岩屋親水公園から筑前岩屋駅周辺地域の草刈りを手伝っていただきました。留学生の唐鑫さんは、岩屋地区との交流事業への参加はすでに4回目。非常に有意義な時間であり、今後とも積極的に交流活動に参加したいと語りました。また学生のリーダーをつとめる溝内亮佑（26歳）さんは、数年前から他地域でもこうした活動に深く携わってきており、地域の方々の日々の暮らしに接し、共に汗を流す機会は大学院で自身が研究する領域にとっても示唆が多いと語られました。今後も定期的に村との関わりを持っていただけるとの事で、岡先生はじめご参加いただいた学生の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。



▲地元の方の作業風景①

▲留学生の二人とリーダーの溝内さん

▲沿線上の作業風景①



▲地元の方の作業風景②

▲九大ボランティアチーム

▲沿線上の作業風景②



【岡幸江先生 プロフィール】  
福岡県生まれ。専門は社会教育学・地域教育論。地域づくりや対人援助の視点から世代をこえた学びのあり方や、地域の関係性・支えあいの文化をいかに再構築するかに、研究的関心を置いている。現在、学生たちの実践の場を作り出す活動に力を注いでいる。



待ち望まれる

## ■ JR 日田彦山線復旧に向けた動き

### ● 石井国土交通大臣に日田彦山線復旧に関する要望書を提出しました

平成 30 年 10 月 17 日に、国土交通省において、村長及び小川福岡県知事、寺西添田町長をはじめ被災した沿線自治体代表と共に国土交通大臣宛の要望書を森昌文事務次官に提出しました。

内容は、日田彦山線の早期復旧に向けた JR 九州に対する指導を、国土交通大臣に要請するものです。  
(5 ページから 7 ページまで提出した要望書を原文のまま掲載しております。)

### ● 第 2 回日田彦山線復旧会議が開催されました

10 月 25 日(木) に平成 29 年 7 月九州北部豪雨の影響により、現在も運転見合わせ中の日田彦山線(添田駅～夜明駅間)の復旧と運行について、沿線自治体と JR 九州が協議する日田彦山線復旧会議の第 2 回会議が、大分県別府市で開催されました。

会議の中で、鉄道での復旧を前提に協議をすることを改めて確認し、国や自治体が復旧に係る費用を補助する鉄道軌道整備法の活用を検討することとしました。

今後、自治体副首長級で構成される復旧会議検討会において、これまで以上にスピードを上げて検討を深め、復旧会議へ報告を行うこととし、「第 2 回日田彦山線復旧会議」は終了しました。



▲復旧会議の様子



▲会議後の取材の様子

#### <鉄道の災害復旧補助(鉄道軌道整備法)について>

被災した鉄道の復旧には、鉄道軌道整備法(てつどうきどうせいびほう)という法律に基づき復旧に要する費用の一部を助成する制度があります。今年、この法律が一部改正され新たな補助制度が平成 30 年 8 月 1 日から施行されました。

新たな補助制度となったことで、今までは補助対象が赤字事業者の赤字路線に限定されていたものを、黒字事業者の赤字路線についても補助対象となりました。

日田彦山線の復旧においても、この補助制度の活用による早期復旧が期待されます。

### ■ 筑前岩屋駅に日田彦山線の応援看板

筑前岩屋駅付近に 2 カ所、日田彦山線を応援する木製看板を地元有志の方が設置されました。地域にある大切な鉄道を応援する気持ちが強く伝わります。

今後とも公共交通をより良いものとするため、村民全員での利用促進の取り組みをよろしくお願いいたします。



## 県指定無形民族文化財（国選択無形民族文化財記録保存）

### 古みこしの原形を今に伝える “おほし様まつり” 行われる

大分県との県境にある福井神社の「おほし様まつり」は、平安時代頃を起源と考えられる古い祭事である。戦後、長らく途絶えており、昭和六十年代になって、村の長老たちの努力によって再びこの地に復活した。稲作というものは、古来より日本人の精神生活に深く直結しており、穀物、特に米の霊に対する感謝の思いが、やがて深い信仰心となった。

福井神社には、米にまつわる伝説が、今でも「福の井戸」という形で残っており、701年（大宝元年）夏、修験道の開祖と言われるえんのぎょうじや おづぬ役行者小角が修行の道中にこの地を訪れ、3人の童子と対した所、井戸から米が湧き出たと言われている（伝説については諸説あり）。



▲灯籠を和紙で飾り付け



▲神饌及び“おほし様”



▲注連卸しの様子（お祭り前日）



▲東福井公民館からのオウダリ行列



▲宮柱：岩田謙二さん



▲オモト：伊藤哲也さん



▲御星を担いだオモト



▲お宝もちまきの様子



▲神課と共に神社に入る御星



▲奉納子ども相撲

福井神社の祭礼の特徴は、米の霊（穀霊）を崇め、むらみこし藁神輿、別名「おほし様」と呼ばれるご神体を、宮柱（宮総代）や村人たち氏子で担ぎ、元宮にお供えするというもの。この「おほし様」は、重量が60kg近くあり、しんこうぎょうれつ神幸行列の中心に村の若者が選ばれるのだが、古来選ばれた若者（オモト）は、祭りの約1ヶ月近くを禊し、その役目に臨む。神幸行列の最中、神社までの道のりは大変きつく、行列は3回まで休憩が許されている。

時代と共に、農村は過疎化し、祭りを担う後継者の問題も顕著になってきている。今後、このような文化形態の祭りの継承、保存は新しい枠組みで守り伝えてゆく必要もあるのかも知れない。それでも福井神社には、それを支える宮座と言う集落の仕組みや神課じんがと呼ばれる持ち回りの制度が存在し、そしてさらに祭りの中心を担う宮柱というものの存在が継承に重要な役目を負っている。今年も、この宮座の仕組みによって、1つ1つの祭りが形成されていった。